

第9回「特別支援教育（登校支援・学習支援・生活支援・就労支援・関係諸機関との連携）に関するセミナー」が開催されました

平成30年12月8日（土）

【一 発達障がいのある児童・生徒への支援 一】

平成30年12月8日（土）、福岡こどもたちのセーフティネット研究会主催の「第9回特別支援教育に関するセミナー」が、昨年に引き続き九州産業大学で開催されました。

平成19年度より特別支援教育は新たな制度としてスタートし、体制整備が進められてきました。各教育機関及び関連諸機関におかれましては、その支援体制の在り方や枠組み作りが進んでいます。そのような中、本セミナーは9年前より公私の枠を超えた貴重な情報共有の場として、主管校が中心となり毎年開催されています。手のひらの隙間から零れ落ちてしまう子どもたちにとって、安心できるセーフティネットの構築を願う有志による手作りのセミナーです。今年度も九州産業大学の全面的なご協力を得て、特別支援教育に関心のある方々が多く参加されました。

基調講演では、立命館大学 産業社会学部及び大学院人間科学研究科 教授 野田 正人氏が、「困難をかかえる子どもたちへの支援の在り方 ～隠れたスペシャルニーズに気づく力～」と題して講演されました。

【分科会の様子】

第1分科会「登校支援」角川ドワンゴ学園N高等学校 入試広報部九州エリアマネージャーの萩原 裕治 氏が実践を発表されました。2016年4月にインターネットを活用し、自宅にしながら高校生活を送ることができる「ネットの高校」として開校したN高等学校。開校後に生徒の要望から通学できるキャンパスを2017年4月に東京と大阪、翌2018年4月には福岡を含め全国6カ所に開校。ネットの高校で過ごす高校生活やネットの高校が作った通学コースについて説明がありました。

第5分科会 「関係諸機関との連携」では東京シューレの理事長 奥地 圭子 氏が「学校に子どもを合わせるのではなく、子どもに合わせる学校を創りたい、との思いで実践してきた東京シューレ葛飾中学校について話されました。葛飾中学校はフリースクールを母体に開校した私立中で、入学要件が不登校という変わった学校ですが、子ども 中心の教育を行って11年、個別性、集団性の高い多様な学びの在り方を展開されています。

そのほかの分科会では、東京都立足立東高校の高山 庸子副校長がエンカレッジスクール（全日制普通科）の特色ある教育課程や学習の様子。その他生活支援、就労支援など5つのテーマに分かれ、それぞれ事例報告やパネルディスカッションを行い、問題提起や情報を共有されました。